

Do CL Column

オカリナからの拡がり

岡 倫



もう 10 年ほど前のことになります。ある日楽器屋さんでピンク色の美しいオカリナを購入しました。

ピンク色で光沢のある美しいオカリナは手に取り息を吹き入るとすぐに音が出ました。基礎教本を参考にするだけで簡単な童謡ぐらいいは何とか吹くことができたのです。しかし、ある日自分の音がお手本の CD の音とは異なったものに聞こえました。あまり美しくない自分の音の事実を知ったのです。そこで、講師を捜したところ、近くにオカリナ教室があることが分かり早速入学しました。

最初に購入したオカリナはアケタというメーカーのソプラノ F 管でした。教室ではアルト C 管を購入しました。それは今までのより少し大きいサツマイモのようでした。そのサイズの笛は私には持ちにくく、最低音を出すときは指穴が思うように塞げなくて難しいのです。その上、息が漏れていたのか息が足りませんでした。これ以上は無理だと感じ先行きに不安を感じたものでした。またオカリナという楽器は音を出すのは簡単ですが音程の調節が難しく、美しい音色で表現力を養うには年月がいることもわかりました。それでもひたすら講師の楽譜に向かっていくうちに年月が過ぎました。

ある時、オカリナのブログがあるから覗いて見ないかと誘われ、書き方もよくわかりませんでした。がさっそくブログを始めることにしました。今ではそのブログによって遠方に住むオカリナ友人が増えました。ブログではオカリナの練習に合わせて CL の考え方も入れ、練習の録音に残された事実(失敗や成功)から次の目標を見つけ、演奏会では多くの人の手によって運営されている事実やそれまでの講師や家族の支援と私たちの努力によってその日があることの実実に目を向けるようにしています。

教室では楽しく学べ、年齢や性別を問わず友人も増えました。それ以外の人との日常の会話にもオカリナの話すれば私も楽しく相手も楽しんでくれていることがわかりました。いまでは友人とアンサンブルを組んで演奏することもあります。

演奏の本番は緊張で普段のように指が動かなかったり、息が苦しくなったりしますが、先ほどのミスをあれこれ考えたり、息苦しさを原因を詮索したり客席の人のことを考える余裕はありません。演奏の今に集中するようにしています。また、アンサンブルは自力と他力の協働で一つの演奏が成り立ち、お互いを感じながら演奏できるのが楽しいところです。

オカリナを思い切って購入したことからオカリナや音楽そのものも味わうことができます。さらに友人との話題が増え、インターネットの世界にも興味を持ち楽しく過ごすことができます。

反面厳しい現実にも直面します。ほかの楽器を経験していない私には音程やリズムが難しく感じることもたびたびです。オカリナは息を吐きながらトウとタンギングをし、指穴をふさいだりあけたりして演奏するのですが、それらが少しずついい音が出ません。強弱やさまざまな表現も難しいものがあります。ここまでやってきた事実を認め、次の目標に向かって行動していきます。

これからも講師や友人のお付き合いにありがとう、家族の協力にありがとうの行動をしながら、オカリナの世界を楽しみたいものです。(大阪市北区 CL インストラクター)

 [目次へ戻る](#)